

チャペルの窓 ヤコブの梯子

この絵は「ヤコブの梯子」である。



ニコラ・ディーブル 《ヤコブの夢 (ヤコブの梯子)》
(パリ出身、1495年から1531年にアヴィニョンで活動)

ヤコブは人生の後半にイスラエルと改名されたイスラエル民族の祖先である。

ヤコブには双子の兄エサウがおり、エサウから長子の祝福(権利)を奪ったことが原因で、800km離れたハランに住む叔父ラバンのところに逃げる途中である。ヤコブはひとりで遠くまで旅をする孤独感に加え、兄から反感をかった恐怖、将来に対する不安等、肉体も精神的にも疲れ果て、石を枕に野宿するのである。神はそのように絶望したヤコブに現れてくださった。

ヤコブはベエル・シェバを出て、ハランへと向かった。彼はある場所にたどり着き、そこで一夜を明かすことにした。ちょうど日が沈んだからである。彼はその場所で石を取って枕にし、その場所で横になった。すると彼は夢を見た。見よ、一つのはしごが地に立てられていた。その上の端は天に届き、見よ、神の使いたちが、そのはしごを上り下りしていた。創世記 28: 10~12

この夢に出てくるのが、「ヤコブの夢 (ヤコブの梯子)」である。

そして、見よ、主がその上に立って、こう言われた。

「わたしは、あなたの父アブラハムの神、イサクの神、主である。わたしは、あなたが横たわっているこの地を、あなたとあなたの子孫に与える。あなたの子孫は地のちりのように多くなり、あなたは、西へ、東へ、北へ、南へと広がり、地のすべての部族はあなたによって、またあなたの子孫によって祝福される。見よ。わたしはあなたとともにいて、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。」ヤコブは眠りから覚めて、言った。「まことに主はこの場所におられる。それなのに、私はそれを知らなかった。」 創世記 28章 13~16節

このようにヤコブは励まされ、旅を続けるのである。この「天に届く梯子」は、イエスキリストを象徴していると言われている。イエスはまさしく天に届く梯子が架けられたように、私たちを天に繋いでくださる。そして、「見よ。わたしはあなたとともにいて、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。」と私たちにも約束してくださるのである。